

ブックガイド



「上野」時空遊行
歴史をひもとき、「いま」を楽しむ

浦井正明著、早坂卓写真

もしも上野の寛永寺が幕末の上野戦争で焼失しなければ、京都や奈良の神社仏閣に劣らない、まさに世界遺産に登録されてもおかしくないほどだと、寛永寺執事である著者は非情な歴史の歯車の動きをなげく。本書は天海がプライベートで寛永寺を建て、その周辺を江戸庶民のために名所化しようとした背景を探り、明治維新後は上野が国民意識アピールのための拠点として、イメージ作戦が展開され、現在の上野の原型が作られた歴史をたどる。

西郷像の建てる場所が皇居から上野に変更された理由、築地にあった精養軒が大久保利通の発案によって上野に出店したこと、敗戦後不忍の池を水田にしようとした動きがあったことなど、興味ぶかいエピソードが満載。(A5判・251頁・2300円・プレジデント社)

◎ 佐藤郁哉著
フィールドワークの技法
問い合わせる、仮説をきたえる

◎ 河本佳子著
スウェーデンの遊びのび教育

◎ 根来冬二著
お墓づくりの本



スウェーデンの教育は、自分で考える能力を養う「自己形成の教育」をすすめている。これは、自分で考え、豊富な選択肢で、自分から自分に合うものを選び出しして行動に移し、その結果には自分で責任をもつ人間を育てるこことを目標とする教育で、すでに保育園から開始され、基礎学校、中学校、高校、大学まで一貫して行われている。

公営霊園、民営霊園、寺院霊園の違いはどこにあるのか。墓石の相場と選び方、一般的な形とはどんものなのか。散骨はどうすれば可能なかきらには墓を買うことが土地の使用权の購入であって、土地そのものの購入をおこなってはいないこと。しかし、その使用权は強力に保護されており、安易には無縁墓に集合されないことなどが詳しく述べられている。当然、そ

関心をもつている分野を調査し、それらを記録する「フィールドワーク」という手法は「一つの調査方法であるだけでなく、世界認識の方法」として関心を集めているが、本書はこのフィールドワークに関する原則や手法などを具体的にまとめた手引書。例えば、参加者の対象との距離のとり方に注目すれば「完全なる参加者」というスタイルから「完全なる観察者」があり、その両極を搖れる「参与観察」もある。だが、フィールドワークである以上、当事者でもなく完全な局外者ではない戦略的な第三の視点、著者は「異人性」と名づけるが、このようなことがフィールドワーカーには求められるといい、ここでは著者が実際に行った暴走族や現代演劇等へのフィールドワークを例に使なが、フィールドノートのつけ方や書き書きの方法、それを民俗誌へと書き上げていく漸次構造化法なども併せて丁寧に解説していく。(B6判・34

6頁・2900円・新曜社)

本書は、それらを各学校ごとに詳しく解説したものであるが、著者は30年前にこの国に移住し、教師として学校で働き、母親としても学校とかかわり、現在は作業療法士として学校との連携を行っているだけに、最後に

こでは税金のことや気になる墓地の購入には取得税も固定資産税もかからないが、親が残した財産の中からお墓を納入しても、その費用は相続税の控除にはならないことなども分かりやすく解説する。(B6判・22